

### 福岡県広川町における活動組織の例

- 当地域では、農用地や用・排水路等の保管理を農家が各自で行ってきた。しかし、農業者減少・高齢化等により適正な管理に支障が生じる恐れがあった。
- 遊休農地化しつつある農用地を地域共有の財産として捉え、地域の農業者と小学生によりレンゲの種蒔きを実施。レンゲ草の満開時には、幼稚園児や小学生等が見学会(花見)や生物(植物)観察等を行い、子供達に農用地と水の大切さを伝える学習会を開催している。
- 農業者と地域住民が一体となった取組により、地域住民が農用地は地域の環境を守る貴重な財産として、次世代へ繋げることが大切であるということを再認識できている。

### 【地区概要】

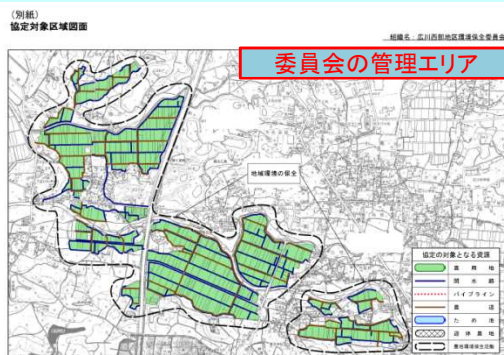
- ・取組面積92.49ha  
(田58.93ha 畑33.56ha)
- ・資源量  
(開水路24.5km 農道13.4km)
- ・主な構成員 農業者、行政区

### ・活動内容

農地維持支払  
資源向上支払

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域の農業者は220名。65歳以上が約40%。10年後には後継者不足が心配される。
- 現在の生態系や景観等の生活環境を良好な形で次世代へ繋げることが重要。
- 特に、農用地や用・排水路など農業生産基盤の適正な維持・管理は、地域農業の発展にとって重要。
- 農業従事者が減少する中で、農地・水・景観等は地域共有の貴重な財産として、地域住民が一体となって保全・管理に努めることが重要。



### 取組内容

- 農用地、水路等の施設は地域住民の共通の財産として将来に引き継ぐために、景観保全として「レンゲの種蒔き」を導入。
- 平成19年度の本委員会の設立から、毎年農業者と地域住民が一体となり、農村環境整備活動の一環として、農道や農業用関連施設の保全・管理の共同作業を実施。



### 取組の効果

- 1.5haの農地において「レンゲの種蒔き」と「生き物観察」を行い、農業体験や自然とのふれあいを通して、子供達に農地や自然環境を守る大切さを伝えることができた。また、今後も「レンゲの種蒔き」を拡大していくことで、地域の景観の形成・保管理への積極的な取組みが期待される。
- 取組には、総勢790名の参加があり、身近な農用地など自然環境の保全に参画することの重要性の共通認識が醸成されたことは大きな成果。

